

唐仁大塚古墳(肝属郡東串良町)

きもつきぐん

ここは大塚神社



大塚神社

祭神 大国主神、須佐之男神、八意思兼神、知々父彦神
御神 鏡三面
やころおもいかねのかみ

創建 島津忠久入国の際、先見を命ぜられた本田次郎貞親が島津家の守護神として建久二年（一一九二年）頃創建したものとされている。

祭日 二月二十八日、十月二十八日、十一月二十八日

主な年中行事 一月十五日 鎮国祭と的始め二月二十八日
祈年打殖祭（田よみ、種子時の神事）棒踊り六月
三日、夏越祭
みそか

「大塚古墳」と刻まれた標柱が立つ



大塚古墳(1号墳)は東串良町の南部にある標高5~7mの砂丘上に立地する唐仁古墳群の3基ある前方後円墳の1基で、墳形は前方部が低く、幅が狭い柄鏡式/3段築成/4世紀末頃の築造/墳長140m、濠まで含めて185m、高さ11mと鹿児島県では最大で、九州地方では第3位の規模/主体部は後円部にある内部が朱塗りの竪穴式石室で、砂岩製刳り抜き舟型石棺が置かれているらしい/短甲と呼ばれる鎧も副葬されていたという/舟形石棺の他、箱式石棺1基も認められているようだ/後円部の墳頂は平らに削られており、その上に大塚神社が鎮座している



国指定史跡 唐仁古墳群

くにしていしせき どうじんこふんぐん

唐仁古墳群の立地と地理的環境

唐仁古墳群は大字新川西に所在しています。

この地域は海拔5~7mの旧期砂丘上にあり、縄文時代後期以前に形成されたものと考えられています。

唐仁古墳群はその砂丘帯に分布しており、南は塚崎古墳群(肝付町)、西は岡崎古墳群(鹿屋市)、北は横瀬古墳(大崎町)で構成される大古墳群のほぼ中央に位置し、昭和9年1月22日に「史跡名勝天然記念物」として、132基が指定を受けました。

指定の理由として「本古墳群は大隅地域における最も著しきものなり」とあることから、地域史的観点から見ていても歴史的に顕著な遺跡であると考えられています。

《古墳見学の際の注意》
唐仁古墳群は個人の敷地にあるものがたくさんあります。見学する際は、所有者に断ってから敷地に入るようにしましょう。





■唐仁古墳群全景



① 唐仁100号墳(役所塚)



② 唐仁16号墳(薬師堂塚)



③ 唐仁33号墳(丸塚)

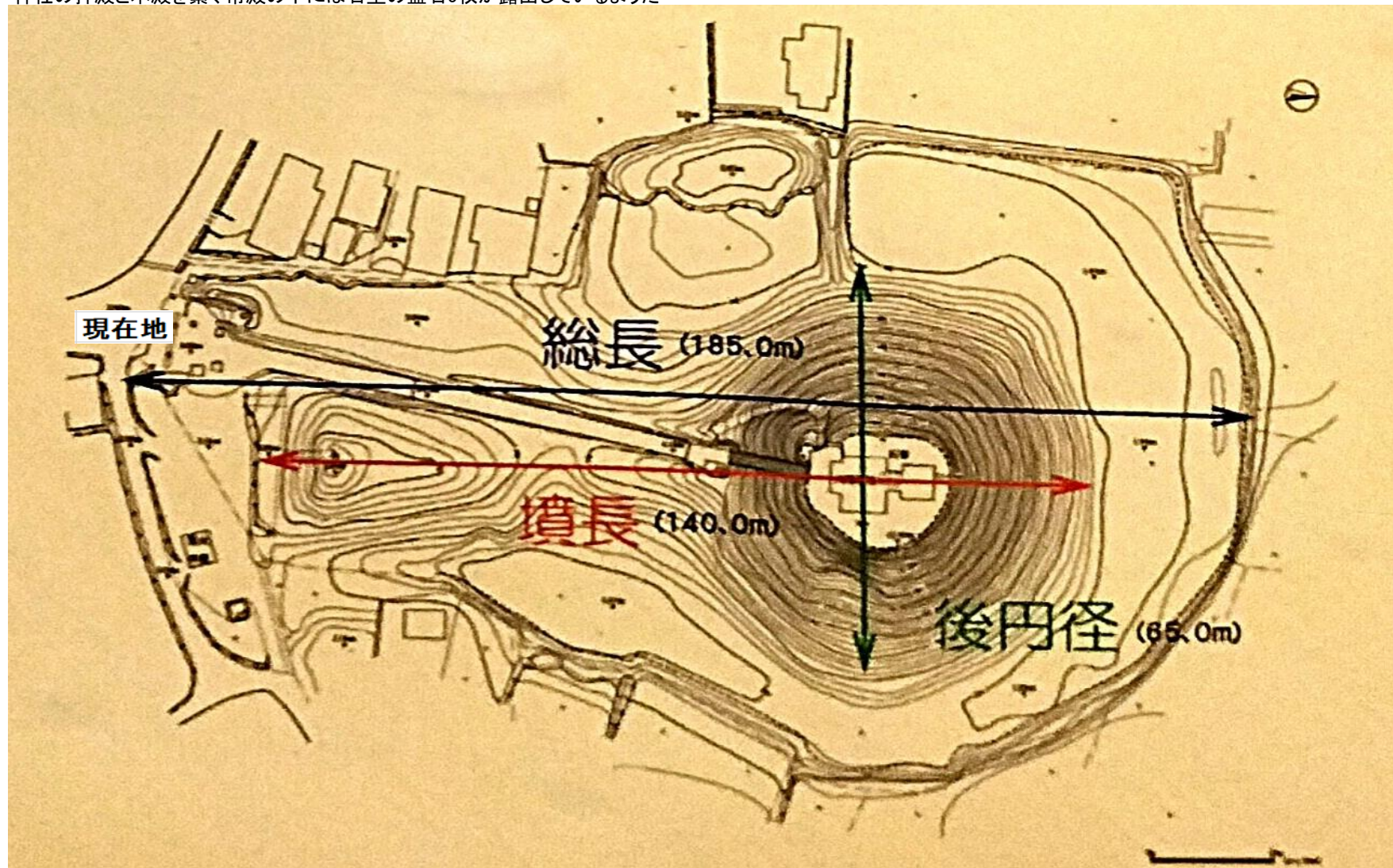
唐仁古墳群は前方後円墳3基・円墳119基・不明等8基の計130基から構成される



中期初頭の1号墳(大塚)→100号墳(役所塚)→16号墳(薬師堂塚)が首長墓系譜をなし、中期後葉には古墳築造を終える/志布志湾岸においては、塚崎古墳群に後続し、横瀬古墳に先行する盟主的首長墓群に位置づけられている/周辺遺跡と比較して地下式横穴墓が存在しないという



参道(前方部から括れ部にかけて墳丘を削っている)は古墳の中心軸から少しずれていて、大塚神社社殿への石段の下がちょうど前方後円墳のくびれ部分/墳丘周囲には周濠が巡らされている/墳丘外表では葺石が認められるが、埴輪は見つかっていないらしい//埋葬施設は竪穴式石室で、後円部墳頂の大塚神社の拝殿と本殿を繋ぐ幣殿の下には石室の蓋石5枚が露出しているようだ



東串良町郷土研修館に展示されていたキャプションより切り取り

左手が参道だが、墳丘の中心軸(軸線)は少し右寄りから大塚神社社殿に向いている



右手に寄ると、前方部の感じが見て取れる

 [video](#)



低い前方部だが、墳頂に小祠があった



その辺りから後円部方向を見たところ

 video



後円部方向に進んで大塚神社社殿が鎮座する後円部(木々の中)を見たところ

[video](#)



そこで、振り返って前方部を見たところ



同じく、参道から後円部を見たところ

 [video](#)



ここが後円部

 video



そこで、右手を見ると後円部から前方部へ続く墳丘ラインが見て取れる



同じく、振り返って前方部方向を見たところ

 video



後円部墳頂に鎮座する大塚神社社殿

[video](#)



社殿の左側を見たところ



社殿の右側を見たところ




社殿の背後を見たところ



そこから後円部の後ろ方向(北方向)を見ると周濠の名残が見えた



後円部墳頂から括れ部辺りを見下ろしたところ/だいぶ改変を受けているようだ

 video



低くて長い前方部墳丘の東側から後円部(木々の中)を見たところ

[video](#)



その左手、前方部を見たところ



更に左手の前方部先端を見たところ



前方部の裾から後円部方向を見たところ

 [video](#)



墳丘の西側で、後円部を見たところ/右奥が前方部

 [video](#)



そこで、左手を見たところ/周濠の感じが見て取れる



同じく、右手を見たところ



さて、ここは併設されている東串良町郷土研修館



唐仁古墳群に関する考古資料が展示されていた

 video



唐仁古墳群第1号古墳（唐仁大塚古墳）

唐仁古墳群第1号墳（通称：1号墳）の基本データ

- ◆ 古墳の形 前方後円墳
- ◆ 古墳の大きさ 総長（周濠まで含めた長さ）185.0m 程
墳長（古墳本体の長さ）140.0m
後円径（古墳の円の部分の直径）65.0m
- ◆ 外表
 - ・周濠（堀）があります
 - ・葺石が一部確認されています

唐仁古墳群の中心に位置し、大きさが総長185m程あり、県下最大で九州でも3番目に大きな前方後円墳です。後円部の高さは現在11m程ありますが、大塚神社を作る際に削られており、本来の高さは不明となっています。

◆ 1号墳の特徴

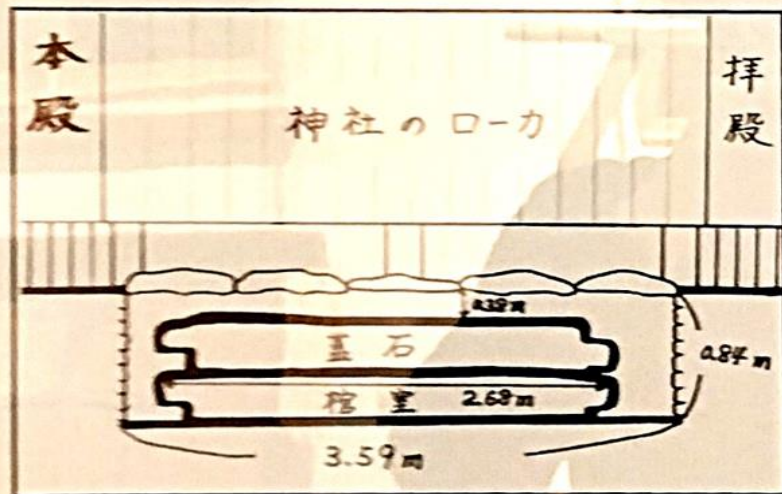
- ① 竪穴式石室とよばれる、周囲を板石で重ねた大きな石室があります
- ② 前方部が低いことから、唐仁古墳群の中で早い時期に造られています
- ③ 平地の上に築かれ、周濠の土を盛り上げて造られています
- ④ 花崗岩の丸石を葺石として使い、土の崩れを防いでいます
- ⑤ 後円部の中心が削られて石室の葺石が露出し、その上に神社が建立されています
- ⑥ 寄生石棺が近くにありますが
- ⑦ 石棺の下石と葺石が、それぞれ1枚岩で鉄のみで丹念に細工されています

1号墳上空
からの写真→



はいでん
神社の拝殿と本殿の間に、むき出しの蓋石があり、自由に見ることが出来ます。さて、石は何枚あるかな？





蓋石下のイメージ図

3mに近い大きな石の棺って、すごいね。どうやってここまで運んだのかな？

＜実は調査されていた？ 1号墳＞

1号墳は、昭和9年に指定を受ける前と後に数回調査をしています。特に、昭和7年の(故)山崎氏の調査では、石室の内部の調査も行われ短^{たんこう}甲の一部も確認されました。

しかし、棺の中については蓋石が大変重く中を確認する事は出来なかったそうです。

調査中の内部写真

(山崎氏の資料より)



墳丘図



